

- ・北海道開発局が取り組みを進めていた釧路川茅沼地区の旧川復元は、平成19年2月に着手し、「旧川の掘削」「直線河道の埋め戻し」「右岸残土の撤去」を行い、平成23年3月に全ての工事が完了しました。
- ・工事完了後は、旧川復元工事の目標である「①湿原中心部への土砂流入などの負荷の軽減」「②氾濫原の再生による湿原植生の再生」「③湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元」「④湿原景観の復元」について、事業効果の検証を行うため、地域の方々と連携してモニタリング調査を行っています。
- ・モニタリング調査では、土砂流入の軽減、湿原植生の回復や魚類の増加など、徐々に効果が現れてきています。

目標① 湿原中心部への土砂流入などの負荷の軽減

H23.9.22出水(台風15号)時には、旧川復元区間で氾濫、土砂が堆積し、茅沼地区上流から河道をとって湿原中心部へ流下する土砂が約9割軽減されました。



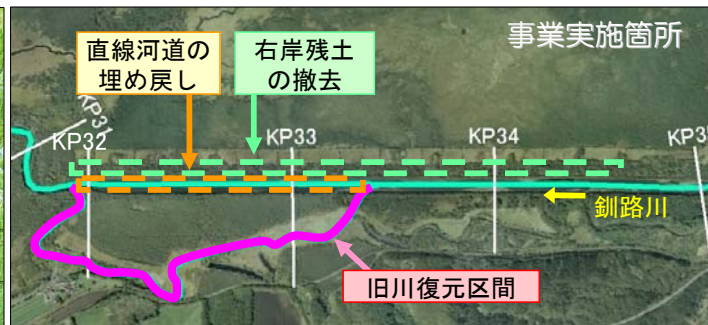
H23.9.22氾濫状況 (茅沼地区右岸)



土砂トラップによる堆積土砂の確認



旧川復元前 (H11.6撮影)



直線河道の埋め戻し

右岸残土の撤去

事業実施箇所

旧川復元区間

目標③ 湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元

旧川復元前に比べ魚類の多様な生息環境が復元しました。シベリアヤツメやエゾホトケドジョウなどの希少種が確認されました。



ヤマメ (サケ科)

エゾホトケドジョウ (ドジョウ科)

旧川復元区間に釣り客が訪れはじめています。近くの釣具店では「今後、深くなれば(深い淵ができれば)魚も増えるだろう。」と話しています。(H23.11聞き取り)

カワヤツメ (ヤツメウナギ科)



茅沼地区の釣り客

目標② 氾濫原の再生による湿原植生の再生

冠水頻度の増加や地下水水位の上昇により、ミソソバ、イ、ヨシ等の湿原植生が旧川復元前に比べ約30ha回復しました。



裸地 H23.5 (施工直後)



ミソソバ群落 H23.9 (植生回復後)

直線河道埋め戻し箇所の植生回復状況

河畔林と後背湿地からなる湿原らしい景観に変化してきています。



旧川復元区間の景観 (H23.8撮影)



旧川復元後 (H23.8撮影)

地域連携による管理

茅沼地区でのヨシの移植やハンノキの生育調査、モニタリング調査などは地域住民の方々と連携して行っています。



ヨシの移植作業の様子

観光振興にも波及

旧川復元区間が新たなカヌーコースとして利用されるなど、観光資源としても地域に貢献しています。



川下りを楽しむ小学生

内容に関するお問い合わせは釧路開発建設部治水課までお寄せください。TEL 0154-24-7250